たすけあい名古屋　通信第１４０号

人生１００年って？

　在宅医療・介護、地域包括ケアシステム。この通信を読まれている方であれば、耳にタコができるほど聞かれている言葉と思います。
「２０２５年問題」、団塊世代の後期高齢化を控え、これまでの介護保険制度をそのまま継続していくことが難しくなっています。曰く介護報酬の財源不足、介護人材不足、介護職員の低賃金等々、介護事業者にとっては頭の痛い問題ばかりです。

　「人生１００年時代」、新聞紙上で目にするようになってきました。現在日本の平均寿命は男女共に世界第２位。男性 80.98 才、女性 87.14 才。健康寿命との差は夫々9.6 年、12.8 年もあります。この差はいわば要介護寿命とも言えます。高齢化した日本社会の一番の問題は、この要介護寿命が延びることをいかにして防ぐかにあるでしょう。
　少子高齢化で、高齢者の介護福祉をどのように支えていくかが問題となり、消費税増税をその原資に充てるとの方針があるものの、増税実施も賛否両論、また、教育無償化、子育て支援への財源の割り振りを行うとの考えが出されています。
介護報酬原資の確保すらままならない中で、要介護寿命が延びることに伴う介護保険サービスの需要が増加していくのであれば、将来の高齢者介護福祉がどうなっていくかは火を見るよりも明らかです。
　少子化の流れを少しでも食い止めるには、子育て支援、教育無償化と言う事は誰しも抗う事が出来ない施策と思いますが、その一方で高齢者福祉にしわ寄せがいくという事になってしまう事は避けなければならないことです。

　「人生１００年時代」などと耳当たりの良い言葉でなく、健康寿命を延ばし要介護寿命を短くすることに力を入れていかなければ、将来の介護報酬負担の増大を防ぐことはできません。在宅医療・介護、地域包括ケアシステム、いずれも介護制度の将来を見据えた施策です。これら社会の仕組みを定着させなければ、「人生１００年時代」はありえません。

　多くの方がいつまでも自宅で暮らしたいと望んでいます。そのためには介護が必要になった時に、訪問介護と通所介護を活用し、出来るだけ長く自立した生活を送れるようにしていくことが基本です。介護サービスは介護に従事する介護職員無しでは成立しません。最近では大きな特養施設を建てたものの介護職員が集まらずに空室が生じるケースが増えてきているとのことです。いかに立派な制度、施設を作ってもサービスを担う人がいなければ成立しません。
　訪問介護サービスのヘルパーさんの確保が難しくなっています。この記事を読んでいただいた皆様からの応募、お知り合いの方のご紹介をお待ちしています。　　（代表理事　西川　達夫）

ご利用者の玉手箱☆…「たすけあい名古屋」をご利用くださっているご利用者のコーナーです。ご利用者にも通信に参加して頂くため、俳句、和歌、詩、短編小説、また「たすけあい名古屋」に対するご意見ご要望、などご紹介していきます。

眞鍋幸子さんの短歌が、「中日歌壇」に選出されましたのでご紹介致します。
眞鍋さんには介護みどりのご利用を頂いています。

特大の桃美しく輝けり
独居となりて夏の過ぎゆく

眞鍋　幸子

【評】伴侶を喪ったのだろうか。一人暮らしになった理由や、その嘆きを詠むのではなく、特大の桃の美しさを発見することによって、むしろ深い孤独感が伝わってくる。歌の展開にも不思議な魅力がある。

（小島ゆかり　選）

平成２９年９月２５日付け
中日新聞より

天白福祉会館だより

利　用　案　内
【開館時間】月曜～土曜
８：４５～１７：００
【電　話】８０２－２３５１

＊ モメないための知っておきたい「相続と遺言のお話」

日　時　12月５日（火）午前10時～正午

天白福祉会館で「相続と遺言のお話」を最近話題のエンディングノートを監修された、東　優（ひがしまさる・行政書士）講師を招いて開催します。

高齢化社会の中で一番関心の強い問題を、福祉会館のご利用者から提案され実施するもので、下記の内容でお話していただきます。

①　なぜ遺言書が必要か　　②　遺言書の種類と特徴
③　遺言作成準備から完成までの流れ　　④　自筆遺言書作成にレッツ・トライ！
他、相続のお話など

福祉会館の利用証をお持ちの方のみ、１１月１１日より窓口で申し込み受付します。（先着５０名様まで）

＊ 人気の「歌声喫茶」！　天白文化小劇場（地下鉄原駅前）で唄いましょう。♪

日　時　12月５日（火）午後１時～３時

第14回「歌声喫茶」を天白文化小劇場（350人収容）で開催します。第13回までは天白福祉会館で開催していましたが、初めて大きな舞台で開催することになりました。鈴木芳子先生のピアノ演奏と山本久美子さんのバイオリン演奏で全員に唄っていただきます。ステージ上で唄いたい方、観客席で皆さんと一緒に唄う方、どちらでも構いませんのでご自由にご参加ください。参加費は無料で申し込みもいりません。年齢に関係なくどなたでも入場できますので、当日会場までお越しください。曲目は、かあさんの歌、青い山脈、湖畔の宿、大きな古時計、涙そうそう、千の風になって、愛燦燦、川の流れのように、他全２９曲です。

（館長　各務 芳春）

特別寄稿

元迷医はなぜ「たすけあい名古屋」に関り・関り続けたか

名古屋市立大学客員教授・たすけあい名古屋名誉会員
宮治　眞

藤村の「夜明け前」の「木曽路はすべて山の中である」に倣えば、当時「介護はすべて山の中である」。当会創立１９９７年８月、介護保険参入２０００年４月、時は介護の夜明け前。僕は１０年後の定年を控え、どうしようかと白い巨塔を彷徨う。種々のボランティアの会、趣味の会などをチョイ見学。そんな折、渡部勝前代表の「この指とまれ」の初会合へ参加。会は開始も閉会も定刻ドンピシャリ、各自の自己紹介、前代表の事前説明や具体的全体像の入念な解説の丁寧さと活発な論議が展開。閉会前は全員が自由な角度からの現場の生の声を１人３分（僕は三行半に因み３分３０秒）。事を起こす用意周到さと前代表自らが拾う現場の声を目の当たりに。かつ【「この指とまれ」／「ほどこしではない」「おしきせではない」「金もうけではない」】の二つのキャッチコピーの巧みさに唸る。

創立前後に、前代表が兄の終末期は１秒でも長くと延命一本やり、「これで良かったのか」という質的変換の呟きが心を刺す。僕は行路病者や老人を扱う病院と大学病院の二足の草鞋を履いた体験が、両施設の乖離に疑念を抱きつつ打ち壊しの名の基に、１年３６５日２４時間、正月、休日もなく１０年弱７００体余の解剖に明け暮れる鬱屈の日々。現在も苦慮中の「死に方の質」の現場底流。

この第一印象が関りの原点。幾つかのチョイ見学は時間厳守と具体的全体像の事前説明の不備、特にボランティアはボランティアという善意を前提とするため、トップの上から目線と現場との齟齬（そご）、現場運営への対話・配慮不足をチョイ見学から見定めた。

僕が責任を負う全ての会は現場運営を徹底して実施。これは小・中学校の先生からくどい程叩き込まれた習い。それ故一言でいえば当会の組織論とも相性が良かったのだ。趣味の五行歌は現在一会員で、会の責任を与った時は、これを確実に実行し、やはり約２０年を経て会の質は深化中。

創立当初は前代表の自宅の一室を開放し、机・椅子一つと電話だけで出発。当時は財政的困窮も厳しく、弁護士、社労士、薬剤師、看護師、財政の行政トップなど異色の多職種の参加をえて、現場の生の声を収集、知恵を絞り専任的な書き手の活用、各種助成金を片端から書いては申請。

僕は現役で実務への直接参加は不可、立場上からは当会に関わる調査、研究、学会発表、論文など少額の研究費を受けながら、ボランティア論の意義の再検討する間接的な協働を拠り所と決断。標的は現場に軸足を置き、肉声を聴く。未成熟だが今も一定の継続性をもつ。

ボランティアであれ、ボランティアだからこそ「己の非を省みるに吝か（やぶさか）にあらず」は組織の要。赤印を付して事前準備の地図迄広げて「姥子山分室」を開設。結局、短期間で撤退したが、前代表自ら見通しの甘さを謝罪した経緯。ボランティアですら組織の責任のあり方を今に学ぶ。自称「困りごと相談所」は全国の現場からの生の声を聞くのではなく、耳を傾けて聴く。打ち壊しから立て直しへの止揚。（以下次頁に続く）

（前頁より）

全てが順調に非ず。僕の脳裏は「死闘」の二文字。介護保険への介入が決定し、たすけあい傘下に「介護みどり」が発足。実務者不在のため雇用、当会の趣旨の現場感覚が共有できず。同じ事務室内で「たすけあい」と「介護みどり」は睨みあいとなり、雇用関係を解消。この一件は僕の棘で、当会消滅の危機、ボランティア論を模索。

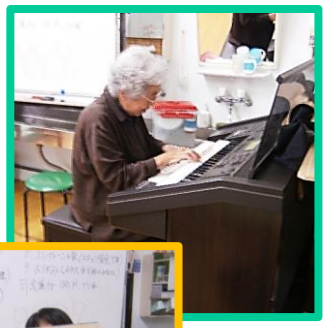
この深層を刺したのが、竹川日出男副代表提案のボランティア論の披歴要請。単刀直入に「純粋（ジェニュイン）ボランティア」・「半分（ハーフ／セミ）ボランティア」・「専門的（プロフェッショナル）ボランティア」。「純粋」は全て自費、「半分」は自費＋必要経費支給＋少額の謝礼、「専門的」は最低限給料の保証。多大な賛意の鍵は要所々々からの刺激。創立当初、泉北ボランティアの先駆者佐藤氏からも刺激を戴く。関西は「半分」は殆ど主婦で、かつ謝礼はパチンコに注ぎ込むと語られ、現場の生臭さ、人生を改めて再考。他方で「純粋」の黎明期、担い手を下僕の如く指示する利用者があり、現場の互助の精神が理解されないと話題に。僕は肉声における地域住民の現場的文化的成熟度とは何かを実感。

愚考を自問しつつ、もう一つの関りの源。かつこれが地域における当会の持続か消滅か、まちづくりか否か、その枠内だ。現場の肉声を直接拾う責任者の責務、組織もまた文化的成熟度が左右する。地域住民の現場的文化的成熟度は、僕が某市の市長候補に推された時の真っ先のキャッチフレーズ【まちづくりは「ものづくり」・「ひとづくり」・「ことづくり」】の濫觴（らんしょう）。水面下の話で結果的に降りるが、何事もやはり肉声を集める責任者自らの行動を当会より学ぶ。２０年後、もう話しても良いだろう。前代表のご自宅で当会内外の肉声に基づく意見交換は他の方以上に頻繁だった。

この前後か。訪問介護支援員（ヘルパー）２級養成講座を自前で育成する為、僕の協力は漫談講義と講師の手配。後年、僕の漫談講演を受講した教え子？に愛知県医師会の総合政策研究機構の地域医療のヒアリングで遭遇、通院中の病院で元同僚がボランティアで参加し、「お元気ですか」との声かけ。これらは血縁以上に地縁、人縁を思い知る。娑婆という泥沼に咲く蓮の花だ。途上中では中山間部の足助病院と都市の中の限界集落と認識した交流ボランティアも実施、残念ながら不十分な成果。ただ都市の中、団地という限界集落の概念が現実的である現況を鑑みれば、先駆的な取り組み。

再び夜明け前の地域住民の文化的成熟に戻れば、現況は「現場の肉声はすべて山の中にある」と言えよう。「たすけあい名古屋通信第８０号」の雑感は当タイトルの内容依頼。あの時は不整脈による突然死への不安と脳力の限界を自覚し、折角の要請を内心忸怩たる順延を記して結ぶ。結論は【元迷医はなぜ「たすけあい名古屋」に関り・なぜ関り続けたか】、明日をも知れない老い耄れ元迷医の生跡学的な肉声の現場検証だ。

デイサービス鳴子だより



＜デイサービス鳴子演芸会＞

ご利用者のご希望もあり、ちょっとした演芸発表会を、スタッフと一緒に行いました。演目は、

1．ミニハーモニカ演奏「草競馬」、駅名綴り(ｽﾀｯﾌ竹本)
2．紙芝居「せんとくのおかね」（ご利用者＆ｽﾀｯﾌ岡戸）
3．コカリナ演奏「故郷」（ご利用者）
4．エレクトーンお試し演奏（ご利用者）
5．ハーモニカ演奏「月の砂漠」（ｽﾀｯﾌ村上）
6．飛入り参加「ラップダンス」（ｽﾀｯﾌ実習生）
7．折り紙（名市大薬学部のみなさん）

時間の都合で、以下は後日発表となりました。

8．カラオケ「岸壁の母」（ｽﾀｯﾌ林＆加藤）
9．歌「坂の上の雲：Stand Alone」（ｽﾀｯﾌ原畑）
10．エレクトーン演奏＆歌「大空と大地の中で」（ｽﾀｯﾌ須原＆竹本）

「芸術、スポーツの秋」に一芸を披露。オカリナではなく木製のコカリナを初めて知りました。みなさん、思い思いに楽しまれたことと思います。

司会進行はスタッフ岡戸でした。　　（デイサービス鳴子　管理者　竹本精一郎）

障がい者総合支援だより

10月25・26・30日の３日間、ハロウィン週間として、みんなで仮装をし、「鳴子のおひさま」を訪問しました。子どもたちはたくさんの衣装の中から思い思いのものを選び、楽しそうに仮装していました。

「鳴子のおひさま」ではご利用者の方々に温かく迎え入れられ、お菓子をもらい、とてもいい思い出になったと思います。また、季節の行事などを積極的に取り入れ、みんなで楽しんでいきたいと思います。　　（かるむ　田﨑 光太）

鳴子のおひさまだより

＜大学生の実習受け入れ＞

鳴子団地で始まった「地域と育む未来医療人「なごやかモデル」プロジェクトに「たすけあい名古屋」も参加しています。その一環として「鳴子のおひさま」もプロジェクトに参加する２大学の実習受け入れをしています。

・名古屋市立大学薬学部の学生
　介護施設における医療・介護・生活支援を理解し、認知症高齢者への接し方を修得します。
・名古屋学院大学リハビリテーション学部の学生
　将来理学療法士を目指していて、地域・在宅で必要な理学療法及び慢性期の各種障害を考慮した生活や方法、それに必要な家屋改造・福祉用具などについて学びます。

昨年と今年の２年間で延べ１００名ほどの学生を受け入れました。

学生は自分たちで考えたレクのメニューを用意して実施したり、自分の課題を持って勉強したりと大変熱意をもって取り組んでいます。また、ご利用者も自分の孫を見るような笑顔で迎えてくださっています。今後も、いい関係で継続できればと思っています。

なお、デイサービス鳴子でも同様に受け入れをしています。　　（管理者　坂倉 行人）

「年忘れ 健康 ふれあい祭り」ご 案 内

たすけあい名古屋主催で「健康」をテーマにご利用者、地域の方々との交流を目的としたお祭りです。名市大の学生さん、中央発條の労働組合の皆さんも参加します。是非お立ち寄り下さい。

日にち	平成２９年１２月１６日（土）
時　間	１０：３０～１３：３０（雨天決行）
会　場	鳴子団地８０号棟中庭

お願い
バザー協賛品募集
11 月 30 日まで
☎99－0833

豚汁
みたらし団子
おでん
フランクフルト
焼きおにぎり

おいしい物コーナー

血圧･骨密度･
握力の測定など

健康に関する催し物コーナー

バザーコーナー

輪投げコーナー

けあプラン鳴子のケアマネによる

介護相談コーナー

※諸事情により販売物、催し物など変更する場合もあります。

ご寄付のお願い

平成２５年７月に認定 NPO の認証を受けてから４年が過ぎました。皆様には多大なご協力を頂き厚くお礼申し上げます。「たすけあい名古屋」は皆様からお寄せ頂いたご寄付を、地域の福祉向上の為に役立てています。国や名古屋市など行政の支援の手の届かないところに対する地域高齢者の健康維持・向上に向けてのグラウンドゴルフ倶楽部、健康体操教室、卓球クラブ、スポーツ吹矢教室等の開催、および福祉有償運送・暮らし助け合い活動など、採算性の低い事業への補助として活用させて頂いています。今後も皆様方からのご協力・ご支援をお願い申し上げます。

ご寄付のお申し出は担当（黒木、羽根）までご連絡ください。

ホームページをご覧ください

たすけあい名古屋　検索

特定非営利活動法人（認定ＮＰＯ法人）たすけあい名古屋　　代表理事　西川　達夫

〒４５８－００４１　名古屋市緑区鳴子町四丁目１３番地　愛知県住宅供給公社鳴子第１住宅

TEL　０５２－８９９－０８３３　　FAX　０５２－８９９－０８００

E メールアドレス：info@tasukeainagoya.com